

# 第3章 異物に対する救命手当

## 【異物による窒息の防止】

窒息による死亡を減らすために一番大切な事は、予防することです。

子供の心停止の主な原因の1つに窒息があります。また、飲み込む力が弱った高齢者には、食べ物を細かくきざむなどの工夫をして食べさせるようにしましょう。

## 【窒息の発見】

適切な処置の第一歩は、窒息を周りの人がすばやく発見するところから始まります。

苦しそう、顔色が悪い、声が出せないなどの症状がある場合は、窒息しているかも知れません。親指と人差し指で喉をつかむ仕草は「窒息のサイン」（写真36）です。高齢者、乳児の食事時、お餅を食べているときなど注意してください。



写真 36

## 【異物の除去：1歳以上（反応がある場合）】

まず最初に、119番通報を依頼します。

救助者が一人の場合、傷病者に反応がある間は119番通報よりも異物除去を優先します。

咳をすることが可能であれば、できるだけ傷病者に咳を続けさせます。意識のある人であれば、咳によって排出することが最も効果的です。

咳ができない場合は、まず背部叩打法を試みて、効果がなければ腹部突き上げ法を試み、異物が除去できるか反応が無くなるまで続けます。

### 1 はいぶこうだほう 背部叩打法（写真37）

- 声が出ない、強い咳ができない、あるいは当初は咳をしてもできなくなった場合には、まず背部叩打を試みます。
- 傷病者を前かがみにするか、椅子の上に腹ばいにさせて、頭部が低くなる姿勢にします。
- 手の平（手の付け根に近い部分）で左右の肩甲骨の中間あたりを数回以上力強くたたきます。



写真 37

## 2 腹部突き上げ法（写真 38）

- 背部叩打法で異物が除去できなかったときには、次に腹部突き上げを行います。
- 傷病者の背中にまわり、ウエスト付近に手を回します。
- 一方の手で握りこぶしをつくり、その親指側を傷病者の臍（へそ）より少し上に当てます。
- その握りこぶしをもう一方の手で握って、素早く手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。
- 傷病者が小児（乳児）の場合は救助者がひざまずくと、ウエスト付近に手を回しやすくなります。
- 異物が除去できるか反応がなくなるまで繰り返し行います。



写真 38

### ～注意事項～

- この方法は、明らかに妊娠していると思われる女性や高度な肥満者、1歳未満の乳児に行ってはけません。
- 腹部突き上げ法は、内臓を痛める可能性があるため、行った場合は、救急隊にそのことを伝えるか、医師の診察を受けてください。

## 【異物の除去：1歳未満（反応がある場合）】

苦しそうで顔色が悪く、泣き声も出さないときは気道異物による窒息を疑い、窒息と判断した場合は、ただちに119番通報を依頼し、以下の対応を開始します。

反応がある間は、背部叩打法と胸部突き上げ法を実施します（成人と異なり、腹部突き上げ法を行ってはいけません）。

### 1 背部叩打法（写真39）

- 片腕の上に腹ばいにさせ、頭部が低くなるような姿勢にし、あごを手にのせた後、突き出すようにします。
- もう一方の手の付け根で背中の中を力強く数回連続してたたきます。



写真 39

### 2 胸部突き上げ法（写真40）

- 片方の腕に乳児の背中を乗せます。
- 手のひら全体で後頭部をしっかり持ちます。
- 頭が下がるように仰向けにします。
- もう一方の手の指2本で、胸の真ん中を強く数回連続して圧迫します（心肺蘇生の胸骨圧迫を腕に乳児を乗せて行う要領です）。



写真 40

数回ずつ背部叩打と胸部突き上げを交互に行い、異物が取れるか反応がなくなるまで続けます。反応がなくなった場合は、ただちに心肺蘇生の手順を開始します。

## 【異物の除去（反応がない場合）】

傷病者がぐったりして反応がなくなった場合は、心肺蘇生の手順を開始します。

- まだ通報していなければ119番通報を行い、AEDの手配をして心肺蘇生を開始します。
- 心肺蘇生を行っている途中で異物が見えた場合は、それを取り除きます。
- 異物が見えない場合は、口の中に指を入れて探らないでください。
- 異物を探すために、胸骨圧迫を長く中断しないでください。